

# 論 文 内 容 要 旨

Parenting Record Handbook: The Needs of  
Mothers Raising Low Birth Weight Infants

(育児手帳：低出生体重児を養育する母親のニーズ)

International Journal of Environmental  
Research and Public Health, 19(5), 2520, 2022.

主指導教員：祖父江 育子 教授

(医系科学研究科 小児看護開発学)

副指導教員：岡田 賢 教授

(医系科学研究科 小児科学)

副指導教員：國生 拓子 教授

(医系科学研究科 精神保健看護開発学)

友安 由貴子

(医系科学研究科 総合健康科学専攻)

はじめに

早産児の生存率は、周産期医療の進展と医療体制の整備により飛躍的に向上しているが、脳性麻痺等の神経学的後遺症を持つ児や、継続的な医療を要する児が増加している。そのため、低出生体重児 (Low birth weight infant: LBWI) の母親は、正期産児の母親に比べ、育児不安や抑うつリスクが高い。

LBWI と母親への支援は内容や時期が限られ、母子健康手帳のような多専門職による母子保健サービスの継続的保証ツールがない。一部の自治体や医療機関は、LBWI のための育児手帳 (リトルベビーハンドブック: LBH) を作成し活用している。LBH は、LBWI の成長・発達、育児とケアの情報、LBWI の母親のメッセージを含んでいる。LBWI の在宅ケアに対する公共サービス不足のなかで、低出生体重児のための育児手帳 (育児手帳) が果たす役割は大きい。

育児手帳の改善、新たな情報や視点の獲得には、育児手帳を使用していない母親の育児の悩みや問題に基づいた育児手帳調査が必要である。本研究は、LBWI と母親のニーズに対応した育児手帳作成のために、育児手帳非利用の LBWI の母親に、育児困難や悩みに基づく育児手帳のニーズを調査した。

## 研究方法

質的な帰納的研究を用いた。対象者は、母子健康手帳利用年齢の低出生体重児 (出生体重 2500g 未満) の母親であった。除外基準は産後うつ傾向の強い母親とした。A 県の低出生体重児の親の会代表者に参加候補者の推薦を依頼し、同意を得た参加者にフォーカス・グループ・インタビュー (FGI) を行い、FGI への参加が困難な場合は、個別に電話インタビューを行った。半構造化面接の内容は、LBWI の育児困難と対処法、支援ニーズと育児手帳への要望であった。LBWI の出生時の状態、現在の医療・福祉サービスの利用等は郵送調査した。

内容分析は、LBWI の育児困難に基づく育児手帳へのニーズに着目し行った。本研究は、広島大学疫学倫理審査委員会 (承認番号: E-1879-1) と広島国際大学疫学研究倫理審査委員会 (承認番号: Rin 20-014) の承認を得て実施した。

## 結果

対象者は、NICU 退院後の LBWI を養育している母親 20 名であった。LBWI は  $2.75 \pm 0.35$  歳、出生体重  $1417.50 \pm 152.06$  g (出生体重 1000 g 未満 40%)、出生週数  $31.25 \pm 1.06$  週、療育センター利用 20%、療育手帳取得 10%であった。

抽出された 38 カテゴリーを、母親の育児困難 24、母親の支援ニーズ 14 に整理し、育児手帳のニーズに関する 8 コアカテゴリーを、時系列 (妊娠から LBWI の出生、NICU 入院と退院から現在に至るまでの過程) で構成した。コアカテゴリーを “ ” で示す。

妊娠期から産後の在宅育児開始期における、母親の育児手帳へのニーズは、“心理的負担の軽減” と “産後の心と身体のケア” を助ける “ピアサポートの促進”、“育児困難への相談先や信頼できる情報源” であった。また、LBWI の発育に伴って、母親は育児手帳に対し、LBWI の現

在と将来の健康における“低出生体重児の発育の指標”、“育児記録”、“出生時からの子どもの情報管理”の重要性を指摘し、“多職種の情報共有ツール”としての機能を求めた。

## 考察

母親は、LBWI の出産に衝撃を受け、LBWI への自責に苦しみ、LBWI について学ぶ機会やピアサポートの不足に苦悩していた。母親にとって早産はトラウマ的な出来事であり、妊娠期からの早期育児手帳提供による母親の心理的負担の軽減ニーズは、新たな知見であった。もう一つの新たな知見は、産前の長期入院による体調不良や、育児による心身の過重負荷による母親の情報入手困難であった。オンラインリソースは、情報の信頼性に懸念があり、質の保証も不確かで、LBWI の母親は、児の発達やケア、サポート情報の入手に苦労している。一方、LBH 掲載の LBWI の特徴（合併症のリスク・発育等）、公的助成や相談機関は、母親の知識獲得や情報活用を促進し、母子の QOL を向上させている。本研究対象者の育児手帳へのニーズと LBH の内容の合致、新たな内容（育児手帳の早期提供と母親の体調不良への対応）の提起は、育児手帳の内容と活用に関する改良を示唆する。

## 結論

母親は、育児手帳に、心理的負担の軽減、産後の心と身体のケアを助けるピアサポートの促進と、育児困難の相談先や信頼できる情報源の掲載を求めた。また、育児手帳に LBWI の発育指標の掲載、育児記録、出生からの情報管理と多職種の情報共有ツールとしての機能を求めた。母親の育児手帳への新たなニーズは、育児手帳の早期提供と母親の体調不良への対応であった。LBWI の母親は、妊娠中から母子の健康を総合的に保障でき、精神的なサポートを得られる育児手帳を求めていると示唆する。